

●入室までの流れ：

進路サポート室に入室し、面接時間5分前まで待機。折り紙などを持参して静かに待っている家庭が大半。5分前になると受付係の先生が呼び出しに来る。その後、教室前に移動。椅子が用意されており、受験番号ごとに着席指示。自分たちが座った椅子の目の前が面接教室。

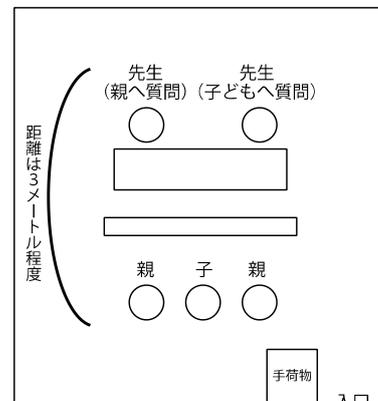
●教室の様子：

教室中央にアクリル板を挟んで椅子が配置。入室時に手荷物置き場を指示される。続いて座席の後ろで挨拶。着席を促されて面接開始。

●質問順番：

父親→母親→受験生→(父親・母親)

※受験生への質問が終わると、それ以降は順序もなく流動的に質問



●面接官：

2名(例：校長先生+女性教諭)(例：入試担当+女性教諭)など

※質問する役割ははっきりしており、親への質問者が話している間は、もう一名の先生は

記録と受験生を観察。受験生への質問中は、もう一名が記録+観察という印象。基本はずっと受験家庭を見つめているが、事前面接資料に書き込みをする姿も見られる。

●質問内容

※複数人の聞き取り内容を紹介。実際に質問されるのは、返答の長さなどにもよるが両親とも5問程度。受験生には8問程度が平均。なお、受験生への質問内容は、面接資料や当日の返答内容等に沿っておこなわれている印象。面接資料に書いたことについて深く聞かれる可能性は考えておく。なお、内部進学入試で質問されていたコロナウイルスに関する質問は、本日聞き取り組はされなかったとのこと。

<父親>

志望動機/子どもの性格や行動で直したいところ/子どもの優れているところ/子どもが最近成長したと思う点/(学校の)ICTについてどう思うか/父親としてどのような役割があると考えているか/中学受験について思うこと/余暇を子どもとどう過ごしているか

<母親>

学校への来校回数、来たことがあるか/この学校を率直にどう感じているか/公開授業の印象/通っている幼児教室/子供を叱るときはどんなときか/受験生の家庭での役割/子どもの優れているところ/子どもが最近成長したと思う点/幼稚園の先生の評価/自分の両親から教わったこと/兄弟姉妹が多いですが、どうしているのか/下の子が小さいが今日はどうしたのか(普段はどうしているのか)/子どもの健康管理について

<受験生>

名前/この学校の名前/今日はどうやってここまで来たか(→通ってきた駅名)/お手伝いは何をしているか(→他には何をしているか)/好きな遊びは何ですか(→答えた内容を発展させた質問)/妹とはどんな遊びをするか(→妹は喜んでいるか)/お父さんの好きな食べ物、お母さんの苦手な食べ物(分からないときは両親に直接聞くように指示。聞いた後に面接官が「どうでしたか」と再度質問をする)/好き嫌いはあるか(→ありません。に即座にピーマンはどう?→お母さん、ピーマンは食べれますか)